おけと ものがたり vol.37

置戸町文化連盟

発足は昭和27年

第37回町民文化祭（舞台発表）の様子

置戸町文化連盟は昭和27年９月１日、音楽、写真、児童文化、俳句、短歌、華道、民謡、舞踊、演劇、箏曲、郷土研究、文芸、謡曲、書画、演芸、茶道、映画鑑賞の17部門からそれぞれ部長を選出して結成、初代会長には新伝末太郎氏が選出されました。秋季祭典総合展覧会の開催や、機関紙『いもづる』の発行などを開始しましたが、世帯が多くて上手く噛み合わず、間もなく俳句、短歌、川柳の３部門で置戸文学連盟を結成して独自の歩みを始めました。

昭和41年に置戸川柳会、峡炎吟社（俳句）、鹿鳴会（短歌）、置戸詩の会、白鷺民謡会、置戸混声合唱団、青年の日読書会、青年の日演劇サークルの８団体で置戸町文化連盟を再び発足させ、会長に星賀繁氏が就任。翌年、澤田正春氏らが編集者となり『おけと文芸』を発行しました。昭和48年に『おけと文芸』から『おけと文連』と名称を変え、以後、毎年発行しています。

連盟では、『おけと文連』と『文連だより』の発行、文化連盟文化賞等の贈呈、新春文芸大会といった恒例行事のほか、時には置戸の自然観察会、文化講演会などを実施していますが、最大行事は何といっても毎年11月３日「文化の日」を記念して行う町民文化祭。舞台発表は、昭和48年より民謡愛好会、秋田音頭保存会、置戸吟詠会、寿流詩舞剣舞置戸支部会、境野民謡愛好会、しし舞保存会等の出演によって、歳末たすけあいチャリティショーとして行われたのが始まりですが、その後昭和51年より「文化の日」に町民文化祭が企画され、芸能発表や展示発表がもたれるようになりました。

町民文化祭は、傘下団体及びサークルが一堂に会し、町民が日ごろの芸術文化活動の成果を発表する場として定着しています。38回目を迎える今年も、10月下旬から展示発表、「文化の日」に芸能発表が開催され、芸術・文化の秋に彩りを添えてくれます。

（参照：置戸町史下巻、続置戸町史）

きらりっ！

創立40周年を迎えた

ボランティアつつじの会

記念式典を終え、安堵の表情の杉本敏子会長

置戸町ボランティアつつじの会（杉本敏子会長）の創立40周年記念式典が10月８日、中央公民館で開かれました。この日は、はじめに杉本会長が「今日まで活動を継続できたのも、先輩会員や地域の皆さまの力強いご支援のおかげと感謝しています」と式辞を述べました。このあと感謝状の贈呈が行われ、４～５代目歴代会長に杉本会長から感謝状が手渡されました。ボランティアつつじの会は、高齢者の福祉向上などを目的に昭和48年に結成され、老人ホームでの入浴介助や老人福祉施設慰問、友愛セール、石けん作りなどのボランティア活動を行ってきました。杉本会長は「これからも思いやりと助け合いの心を持って進んで奉仕活動に取り組んでいきます」と決意も新たに、活動に参加してくれる新規会員を募集しています。